

史跡 西高木家 陣屋跡

近世陣屋として良好に残る石垣・墓所・地下遺構・建造物などの現地遺構に加え、絵図類を含む膨大な量の古文書群が残り、近世幕藩領主の姿を豊富な資料によって現在に伝える全国的にも貴重な遺跡です。



上石津郷土資料館

西高木家陣屋跡に位置し、上石津の自然と歴史・文化を紹介。高木三家の陣屋模型をはじめ、古文書なども展示。

墓所
西高木家歴代
当主らの墓石
43基がならぶ。

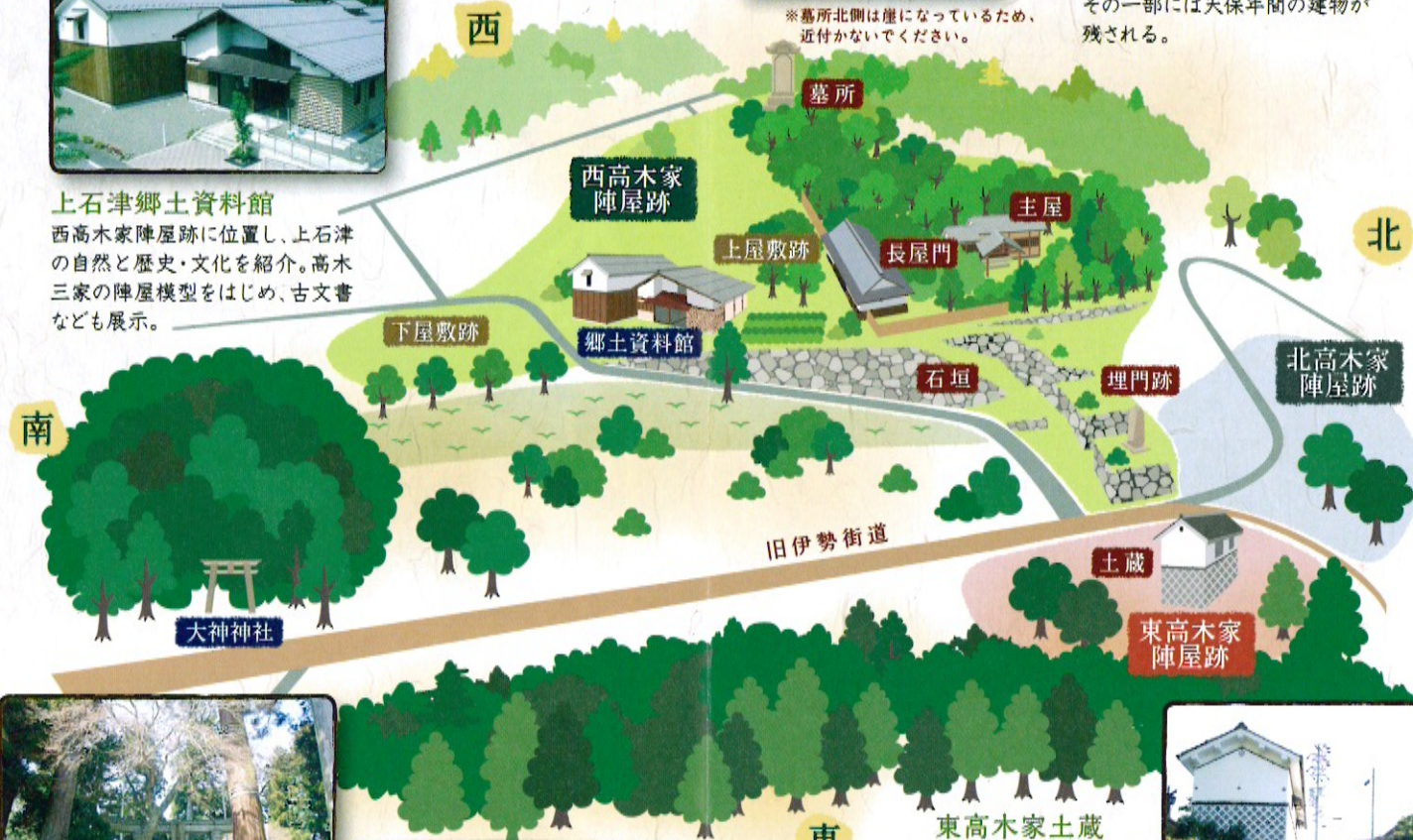


※墓所北側は崖になっているため、
近付かないでください。



主屋【非公開】

明治29(1896)年新築の主屋。
その一部には天保年間の建物が
残される。



大神神社

高木家文書にも記される式内社。
境内には、古木・巨木も多く、社叢は
県天然記念物に指定される。



石垣と埋門

河岸段丘上の建物の
周囲には、城郭を
思わせる石垣がめ
ぐる。旧伊勢街道
沿いには埋門の石
垣も残る。

東高木家土蔵

文政年間建築と伝えら
れるなまこ壁の土蔵は、
残存する唯一の東高木
家の遺構。

旧伊勢街道

北高木家と東高木家の
陣屋跡の間の急坂は、伊
勢街道の名残を留める。



高木家文書

近世高木家文書は濃尾平野の木曾三川(木曾川・長良川・揖斐川)流域の治水資料として古くから知られ、名古屋大学附属図書館所蔵品を中心に、現在も調査・研究が進められる10万点規模の一大古文書群です。

三家に残された文書群は、治水関連史料に加え、領地支配文書や財政・家政関係文書も豊富で、貴重な情報を多数含んでいます。



『安政新屋敷絵図』(大垣市教育委員会蔵)